



母乳



成人向
R-18
For Adult only

夜が更け
日付が変わる頃

か：母さん
開けるよ

俺は母の
部屋を訪れる

……うん
いいよ……

恒平
もう宿題は
終わったの？

うん……

そう……
じゃあこっちへ
いらっしやい

心臓が
割れてしまっ
たら高鳴って
いるのが分か
る

これから
母さんが

オナニーを
手伝ってくれるから



じゃあ…

はじめよつか



うん…

いつもの
元気な
母の声とは違う
上ずった声



母さん…
口開けて

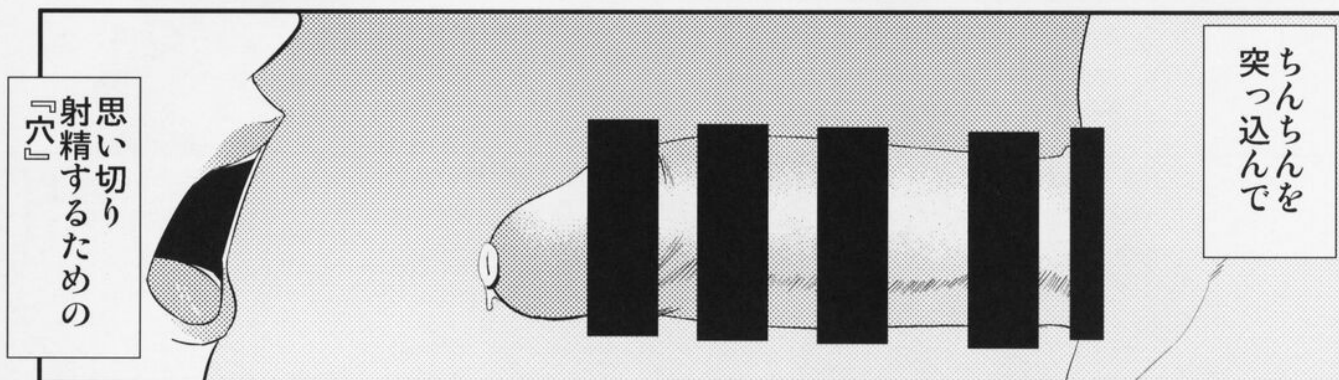


くぱあ

気持ちのいい
『穴』だ



ああ…何も
考えられなくなる



ちんちんを
突っ込んで

思い切り
射精するための
『穴』

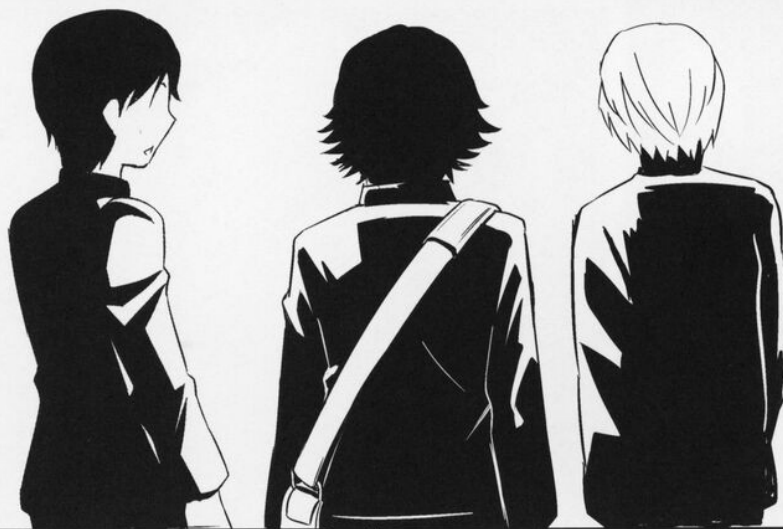
母親に
させる
行為じゃない

そんなこと…
互いに
分かっている
はずなのに

翌朝

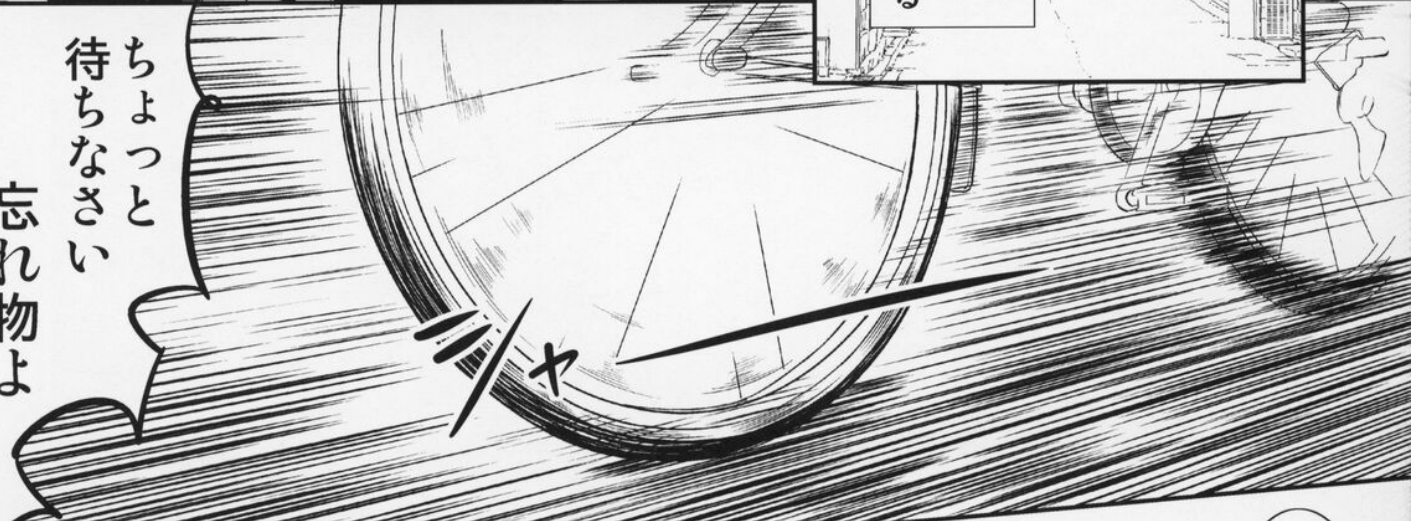
毎晩
あんなことを
してるから

最近はおはようも
言わずに
家をでることにしてる



ちよつと
待ちなさい

忘れ物よ



あの声
お前ん家の
おばさんじゃね?

?

なんで
母さんが...

今頃仕事
行ってるよ



!?



はい
追いついた!

ギィー



やっぱり
お前の
おばさんじゃん



ザー

ほら
忘れ物

友

はい
おはよう
元気が
いいわね

おばさん
おはよう

ほら
あんたも
さつさと
立つ

スッ

お弁当
忘れて
どうすんのよ

あ：
危ないだろ
腰抜けたわ

必死に追いかけて
きたのに
その言い草はなによ

だいたい
寝坊するから
朝慌てること
なるんでしょ

がー

がー

だいたい
あんたは注意力が
足りないのよ

下駄箱の上に
置いてあるもの
どうやったら
忘れられるの

この間だって
体操服忘れて
届けてあげたでしょ

それだけじゃ
ないわ

行ってきました
くらいなんで
言えないの

まずは
そういう
ところから
直さないとな
恒平の場合

グ
ト
グ
ト
グ
ト



あんたは
しっかり
勉強してきなさい

ま、いいわ
母さん仕事
行ってくるから



居眠りしちゃ
だめよー



寄り道しないで
帰ってきなさいね



急いでる
はずなのに
何度も
振り返って…

相変わらずだな
お前ん家のおばさん

あんなこと
させたのに…

いつも通り
接してくれる…

いつも笑ってるか
怒ってるかだよな

母さんの
優しさは
俺だけが
分かってる

俺には
父がいらない

俺が物心つく前に
亡くなったからだ



小学校に
あがる前から
このアパートに
母と二人で
住んでいた

ただいま

だから…
俺にとつての
家族は
母さん一人

おかえりー
お風呂
沸いてるわよ

もうすぐ
ご飯もできるから

あのさ…

お弁当…
ありがとうね

次から
気をつけるから

ふふ…

お礼なんて
珍しいじゃない

…

父親がいない
俺のことを
気遣って

いつも
俺の傍に
いてくれた母

物心ついた頃から
そんな
母さんのことが
大好きだった

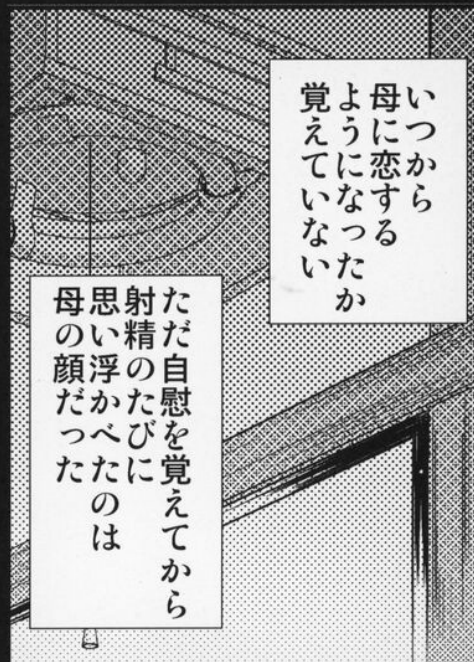


たかだか
ふすま一枚で
隔てられた
空間

母…さん

母さん…っ

母に見られながら
射精する
ような錯覚に
たまらない興奮を
覚えていた



いつから
母に恋する
ようになったか
覚えていない

ただ自慰を覚えてから
射精のたびに
思い浮かべたのは
母の顔だった



どうしたの
夜中…

…に…

興奮しすぎて
自分でも
声を抑えられなく
なっていたんだと
思う



呼んだ？

ピン



丸出しの性器を
晒しながら
何を言いか
したのかは
覚えていない





……

手伝って
あげよつか？



だ……
大丈夫よ

じわ……

みんな……
その……や……
ことだから

ただ……
俺を慰めた
母の言葉を
俺は多分一生
忘れないと思う

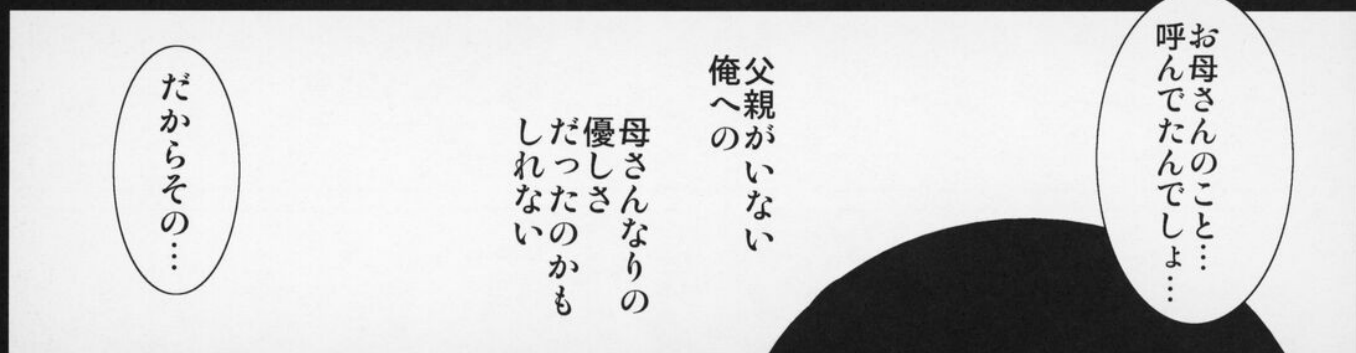


え……と
あの……

ご……
ごめんね

その……
「お母さん」って
聞こえたから

あのその……



お母さんのこと……
呼んでたんでしょ……

父親がいない
俺への

母さんなりの
優しさ
だったのかも
しれない

だからその……



お母さんに
できることが
あれば……

その……
手伝って
あげよつか……

なんて……

俺はその晩
母の手の中で
射精した

あれから
二ヶ月

俺は毎晩のように
母の部屋へ
通った

今日は
宿題あるの？

うん…
英語の予習と
数学のプリント

ふーん…

性行為については
授業や
友達の持つてゐる本で
ある程度は
知っていた

だから
母さんとして
行為が
『あつてはいけない』
ということも
なんとなく
わかってゐた

でも…
夜が近づくとも
どうしても
我慢できなくなる

頭では
分かってゐるのに
気づくと
母の部屋の前に
立っている

母さん…
起きてる？

こっち
いらっしやい

ズボン
脱がして
あげる

ひ、一人で
脱げるよ

いーの
お母さんに
やらせない

ひゃん

もう…
今日も
おつきく
して来て…

ごめん…
でも俺
母さんのこと
考えると…

母さんは
自分に興奮している
というのを
頑なに認めなかった

嘘ばかり…

どうせまた
エッチな本でも
読んできたんでしょ

じゃあ…
いつもので
してあげるね

一度深く
啜え込ん
でから

口の中に
唾液を
ためていく

唾液を
肉厚の唇で
塗りこんで
いくように

唇を締め付けながら
ゆっくり引き抜く

母さんが
俺のために
考えてくれた
優しいフェラチオ

ああ…
母さんの口の中
凄くあつたかい…

味わうように
ゆっくりと
時間をかけて勃起を
賞め尽くしていく

最初は
あんなに
抵抗してたのに



さきつぼ
だけよ

ほんのちよつと
舐めるだけ
だからね



で…できるわけ
ないでしょ
むー

お…おちんちん
舐めるなんて
変態のすること
じゃない



…うん

じつと
してなさい…



今ではこんな…
むしやぶり
つくみたいに…

か…
母さん
俺もう…
限界かも…

俺の一言で
味わうような
奉仕から
射精させる動きへ
変えてくれる

母性の器

母の温かい舌が
性器の隅々まで
這い回る

宝物を舐めるように

べんっ

ぐ

ぐり

俺が喜ぶところを運ぶ

わんわん

16

俺のために覚えてくれた

ぐ

ぐ

が

ま

も

も

お母さんそういう
だらしのないの
許しませんからね

ほら
泣かないの
男の子でしょ

お母さんが
撫でてあげるから

すごい
満点じゃない
いっぱい
勉強したもんね

今日は
ご馳走に
しなきや

俺の
ために…

ここまで
してくれる

母さん—♡

か…さん
俺もう…っ

う…
ああ…





それより
恒平は
気持ちよかった？

え…
あ…うん



ご、ごめん
母さん

興奮しすぎ
ちゃって…

あた

ふた

ううん
大丈夫

むとたけど



よかった

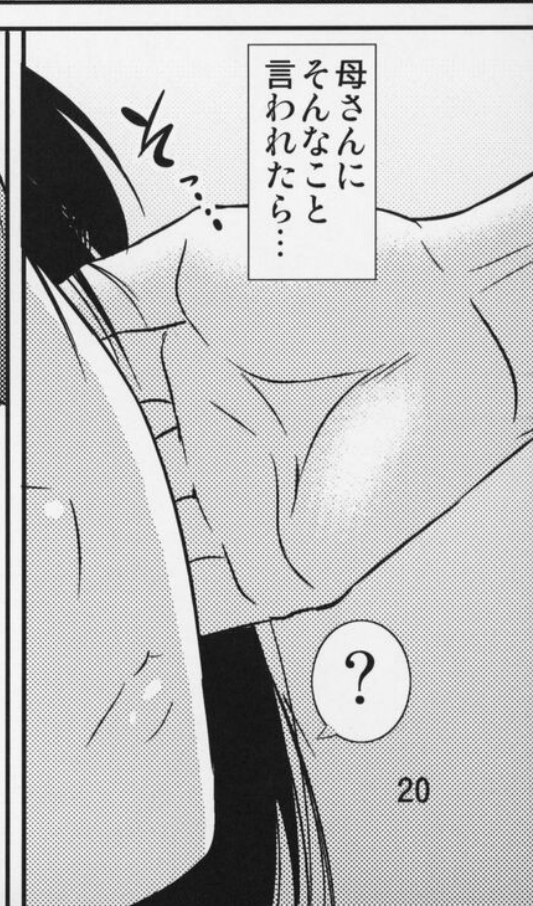
お母さん
こういうの
よく
わからないから…

ダメだよ
母さん…

恒平が
気持ちよく
なってくれたなら
それで十分だよ



俺…



母さんに
そんなこと
言われたら…

?



ありがとう
凄いい持ち
よかつたよ

はあ

自分の卑怯さが
嫌になる



や...やだ

どうしたのよ
急に



恒...平...?

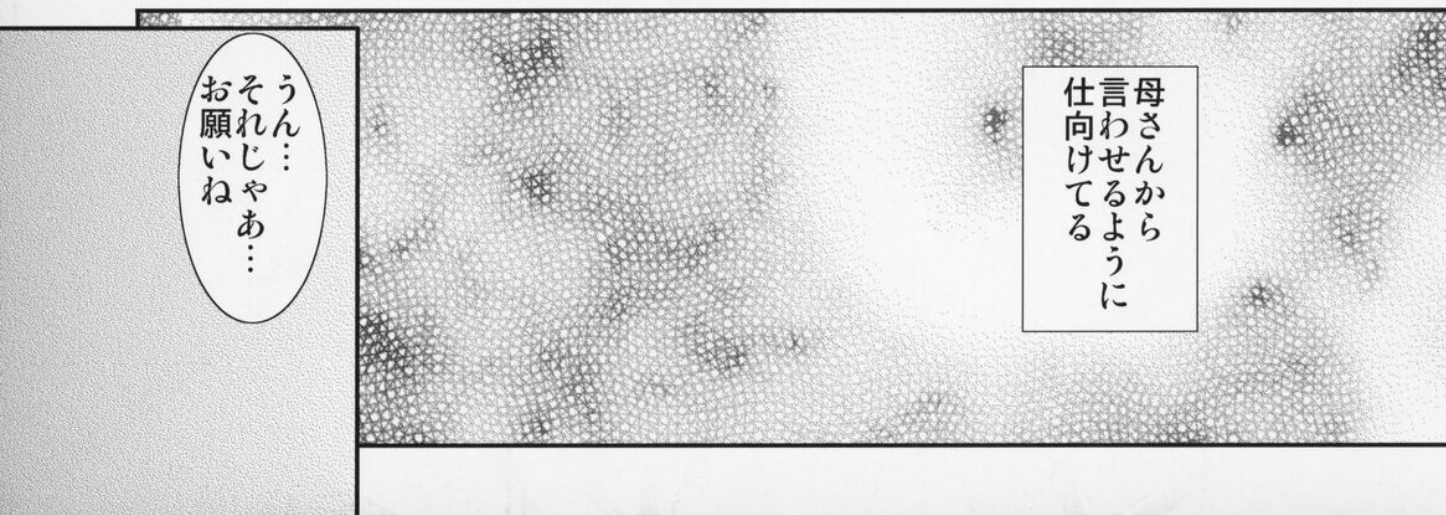


夜の母さんが
俺のお願いを
断るわけないのに

俺...お返しに
母さんのことも
気持ちよくして
あげたい

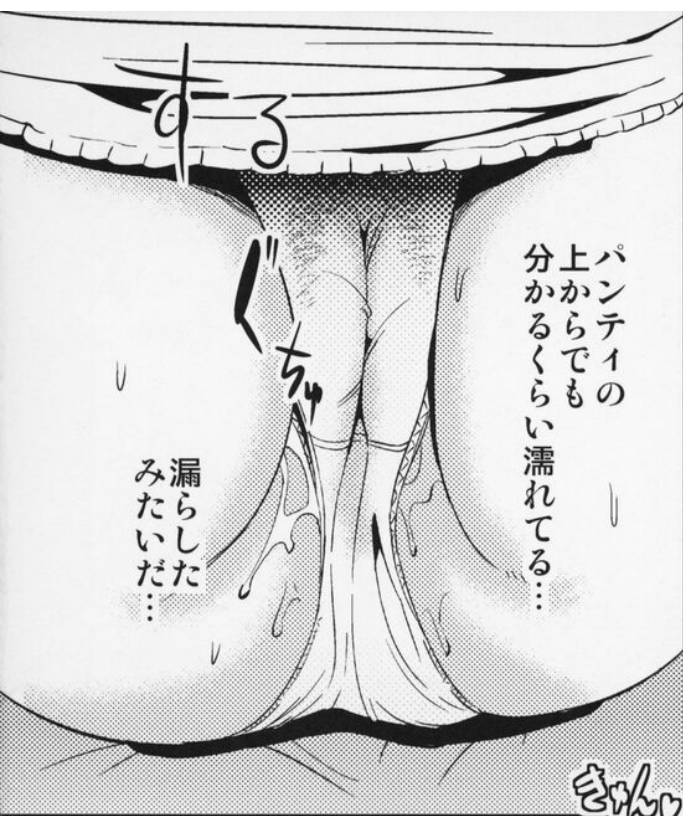
だから
母さんの
あそこ...

触ってもいい?



母さんから
言わせるように
仕向けてる

うん...
それじゃあ...
お願いね



漏らした
みたいだ…

パンティの
上からでも
分かるくらい濡れてる…

そんなに
見ないでね…

ドキ

カア…

お母さん
あ…あんまり
処理してないから

ドキ

きん



か…母さん
濡れてるよ…

し…
知らないっ

かあ

触るよ…

うん…



トロ

しゅ



いつも
受け入れて
くれた母に
拒絶されたことより

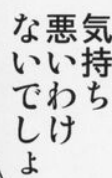
『本当に好きな人』
じゃないと
思われてることが
俺の体を突き動かした

だ：
ダメよっ

抵抗する母を
無理やり
従わせたのは
これが初めてだった

ん
あ
あ
あ
あ
あ
あ



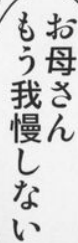


お母さんも
同じ：ずつと
恒平とする
こと考えてた

恒平のおちんちんに
触れるだけで……
凄く興奮してんだよ

でも
お母さんは
お母さん
だからって……

恒平の気持ち
考えないで……



自分の気持ち
ちゃんと
伝える

これからいっぱい
お母さんと
セックスしようね♡





ああ…
乳首こりこりで
美味しい

甘くて
しゃぶつてると
凄い落ち着く

乳首…
いい♡
あんっ
もっと
しゃぶつて



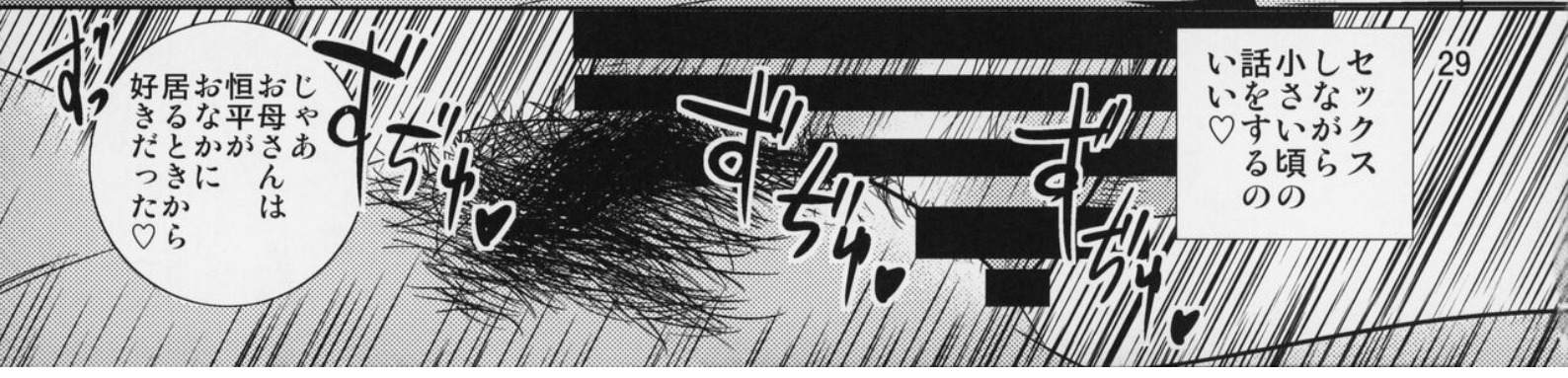
もう…
バカ♡

その頃から
母さんのこと
大好きだった
んだよ

おっぱい…
美味しい？
恒平なかなか
乳離れ
できなかった
もんね

にゅ
にゅ
にゅ
にゅ

もにゅ♡



じゃあ
お母さんは
恒平が
おなかに
居るときから
好きだった♡

セックス
しながらの
小さい頃の
話を
いい♡







俺もう
イ...くっ

ああ…
凄い…♡

恒平見て
ごらん

恒平が
お母さんに
くれた愛の証

そういつて
母は
昼間のように
無邪気に笑った

もうすぐ
夜が明ける

誰に理解して
もらえなくてもいい

僕は母と
もう一つ
家族を作る
覚悟を決めた

あとかき

お久しぶりです
ナリヲです

今回は息子から襲う的な話にしようと思っていたのですが
どうにも和姦方向に話が行ってしまい…

息子視点での母子相姦をもっと勉強したいと思います
(母親視点が好きなのでどうしても母親に肩入れしてしまいます)

あと導入…こればかりはもう練習あるのみです
もっと自然に入れるよう精進していきます
今回はモノログも長く…もっとまとめないとだめですね

あとかきが毎回駆け足ですいません

それでは、またどこかでお会いしましょう

ナリヲでした

奥付

誌名:母穴を掘る14

発行元:天愚連

発行人:ナリヲ

初版 :2014年12月30日

印刷:ねこのしっぽ様 本当にすいませんでしたorz

連絡先:<http://curtana.blog75.fc2.com/>



An artistic illustration of a woman's bare torso. Her skin is covered in numerous water droplets of varying sizes. A purple cloth is draped across her lower chest and abdomen, partially covering her breasts. The cloth has a small, round, reddish-brown button or knot on the right side. The woman's face is partially visible at the top, showing her eyes closed and a slight smile. She has short brown hair. The overall style is soft and sensual, with a focus on the texture of the water droplets and the fabric.

天恩連
